

3章 正社員の結婚・出産後の就業継続

1. はじめに

この調査では、学校卒業時、結婚を決めた頃、第1子出産1年前、第1子1歳、現在というライフステージごとに、どのような仕事についているか、夫の状況はどうかを尋ねている。この章では、結婚を決めた頃正社員であった者の状況とその後（第1子出産1年前）の正社員就業継続、及び第1子出産1年前正社員であった者の状況とその後（第1子1歳）の正社員就業継続についてみる。

まず、2節で、結婚後正社員就業継続したか否か別に結婚を決めた頃の本人の仕事特性・職場特性と配偶者の仕事特性・家事・育児への協力見込み、親の家事・育児への協力見込みをみる。

3節で、本人や配偶者の意識と結婚後正社員就業継続したか否かの関係をみる。4節で、出産後正社員就業継続したか否か別に出産前の本人の仕事特性・職場特性と配偶者の仕事特性・家事・育児への協力見込み、親の家事・育児への協力見込みをみる。5節で、本人や配偶者の意識と出産後正社員就業継続したか否かの関係をみる。

2. 結婚を決めた頃の本人や配偶者の仕事特性・職場特性と結婚後の正社員就業

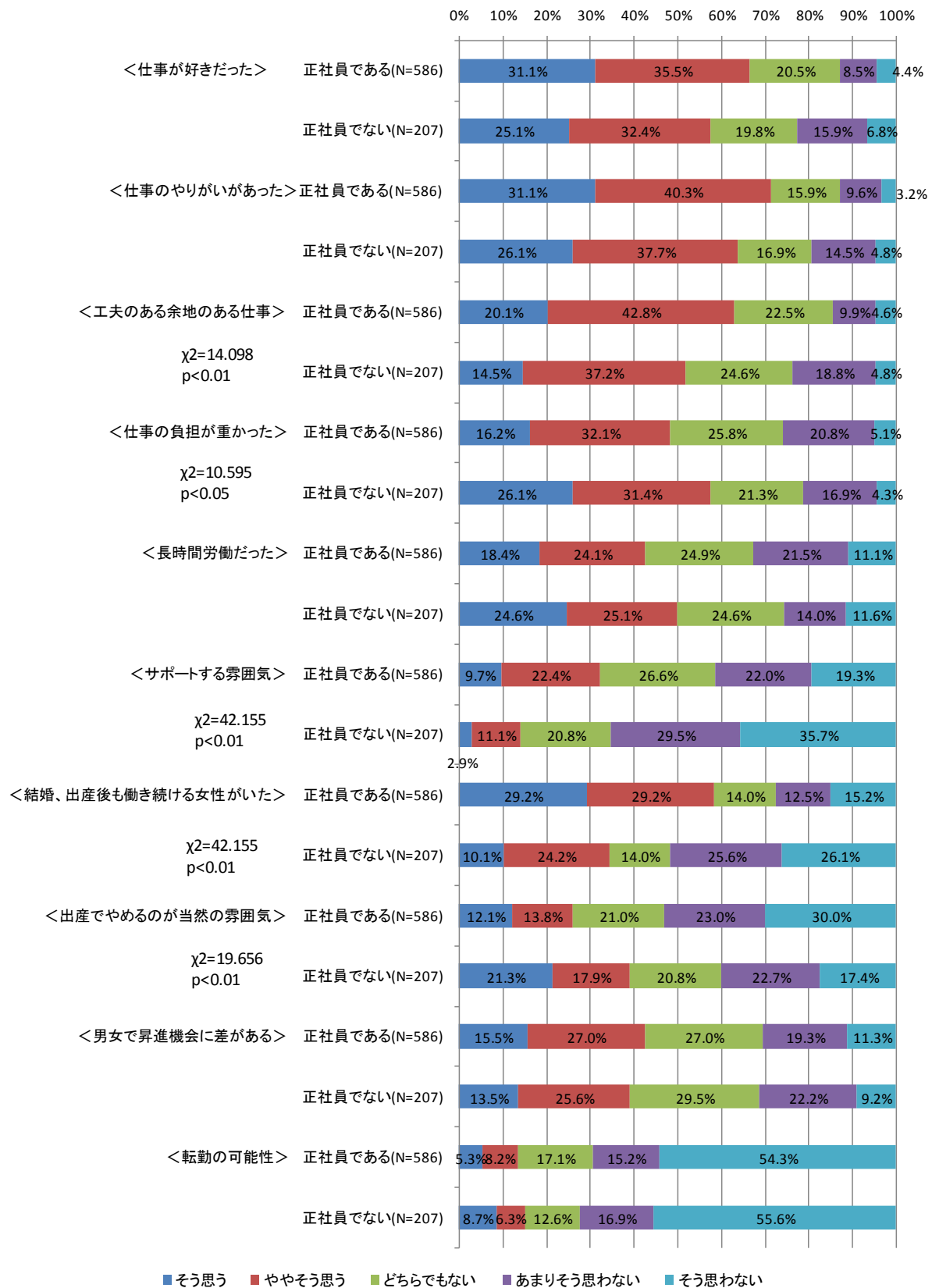
この節では、結婚を決めた頃正社員であり、現在子どもがいる者に限って、結婚後（調査では第1子出産1年前時点）正社員である者とそうでない者別に、結婚を決めた頃の本人の仕事特性・職場特性をみた（図表3-1）。

結婚後正社員である者の方が、結婚後正社員でない者よりも、結婚を決めた頃「仕事が好きだった」「自分で工夫する余地のある仕事だった」「育児中の人をサポートする雰囲気があった」「結婚・出産後も働き続ける女性がいた」に「そう思う」「ややそう思う」と回答する者の割合が高い傾向にあり、「仕事の負担が重かった」「出産でやめるのが当然の雰囲気があった」に「そう思わない」「ややそう思わない」と回答する者の割合が高い傾向にあった。「仕事のやりがいがあった」「男女で昇進機会に差があると感じた」「長時間労働だった」「転居を伴う転勤の可能性があった」については、統計的に有意な違いはなかった。

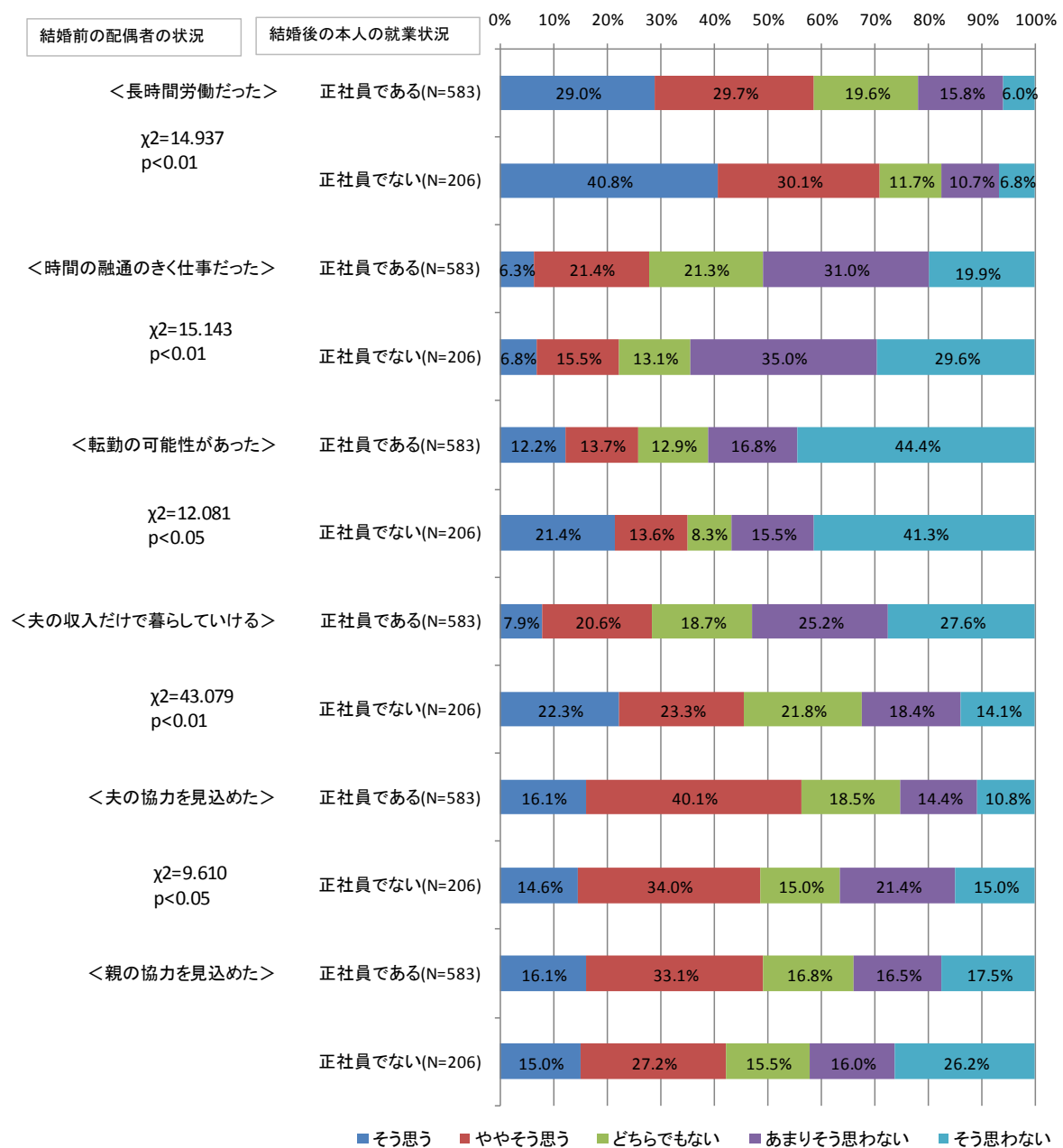
次に、結婚後正社員である者とそうでない者別に、結婚を決めた頃の配偶者の仕事特性や家事・育児の協力見込みをみた（図表3-2）。

結婚後正社員である者の方が、結婚後正社員でない者よりも、結婚を決めた頃配偶者が「夫は、時間の融通のきく仕事をしていた」「家事や育児に対する夫の協力を見込めた」に「そう思う」「ややそう思う」と回答する者の割合が高い傾向にあり、「夫は長時間労働だった」「夫は転居を伴う転勤の可能性があった」「将来、夫の収入だけで暮らしていけると思った」に「そう思わない」「ややそう思わない」と回答する者の割合が高い傾向にあった。「家事や育児に対する親の協力を見込めた」については、統計的に有意な違いはなかった。

図表 3-1 結婚後も正社員か否か別 結婚を決めた頃の仕事特性
(分析対象：結婚を決めた頃正社員で子どもがいる者)



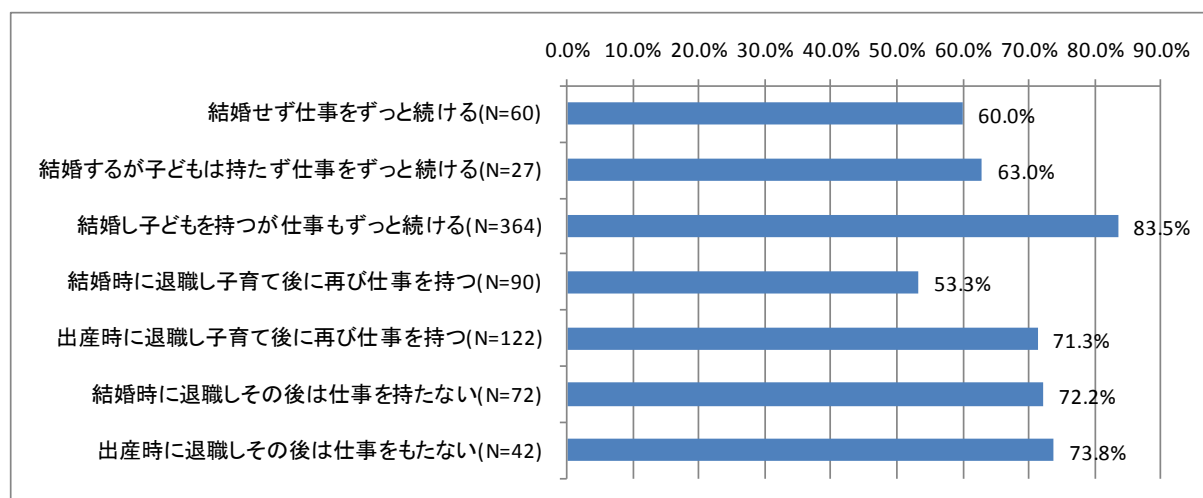
図表 3-2 結婚後も正社員か否か別 結婚を決めた頃の配偶者の状況や協力見込み
(分析対象：結婚を決めた頃正社員で子どもがいる者)



3. 本人と配偶者の意識・価値規範と結婚後の正社員就業

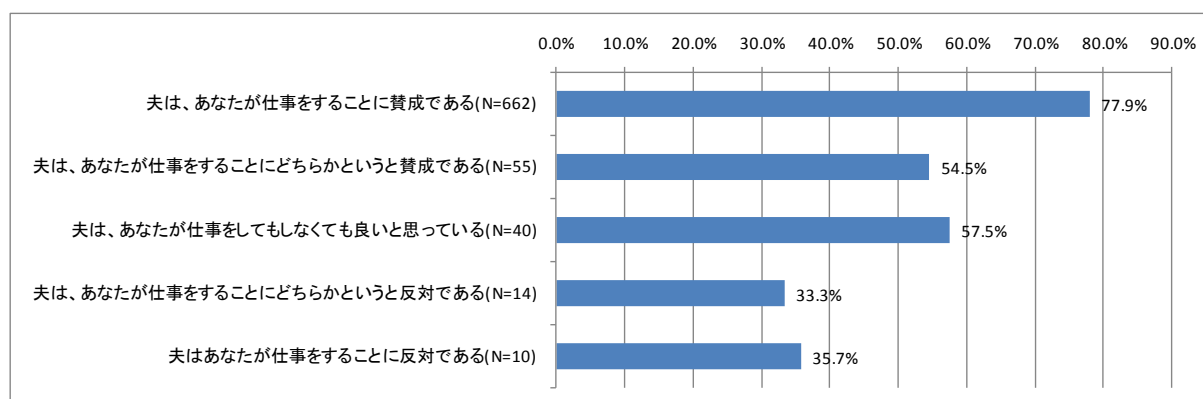
学卒時に希望する就業パターン別に結婚後も正社員として就業している割合をみた(図表 3-3)ところ、「結婚し子どもを持つが仕事もずっと続ける」と考えていた女性は、他の就業パターンを希望していた女性よりも、就業継続している割合が高く、「結婚時に退職し子育て後に再び仕事を持つ」と考えていた女性は、他の就業パターンを希望していた女性よりも、就業継続している割合が低い。しかし、一方、「結婚し子どもを持つが仕事もずっと続ける」と考えていた者でも、結婚後には正社員として就業していない者が2割近くいる。

図表 3-3 学卒時に希望する就業パターン別 結婚後正社員就業した割合
(分析対象：結婚を決めた頃正社員で子どもがいる者)



配偶者が、結婚を決めた頃妻が仕事することに賛成しているか反対しているかによって、結婚後も正社員就業した割合に違いがあるかをみた(図表 3-4)ところ、配偶者が、妻が仕事することに反対している場合よりも賛成している場合のほうが、結婚後も正社員就業している割合が高いことが明らかになった。

図表 3-4 配偶者の妻が仕事をするに対する意識別 結婚後正社員就業した割合
(分析対象：結婚を決めた頃正社員で子どもがいる者)



4. 出産前の本人や配偶者の仕事特性・職場特性と出産後の正社員就業

第1子出産1年前に正社員であった者に限って、第1子1歳時に正社員である者とそうでない者別に、第1子出産1年前の本人の仕事特性・職場特性をみた(図表3-5)。

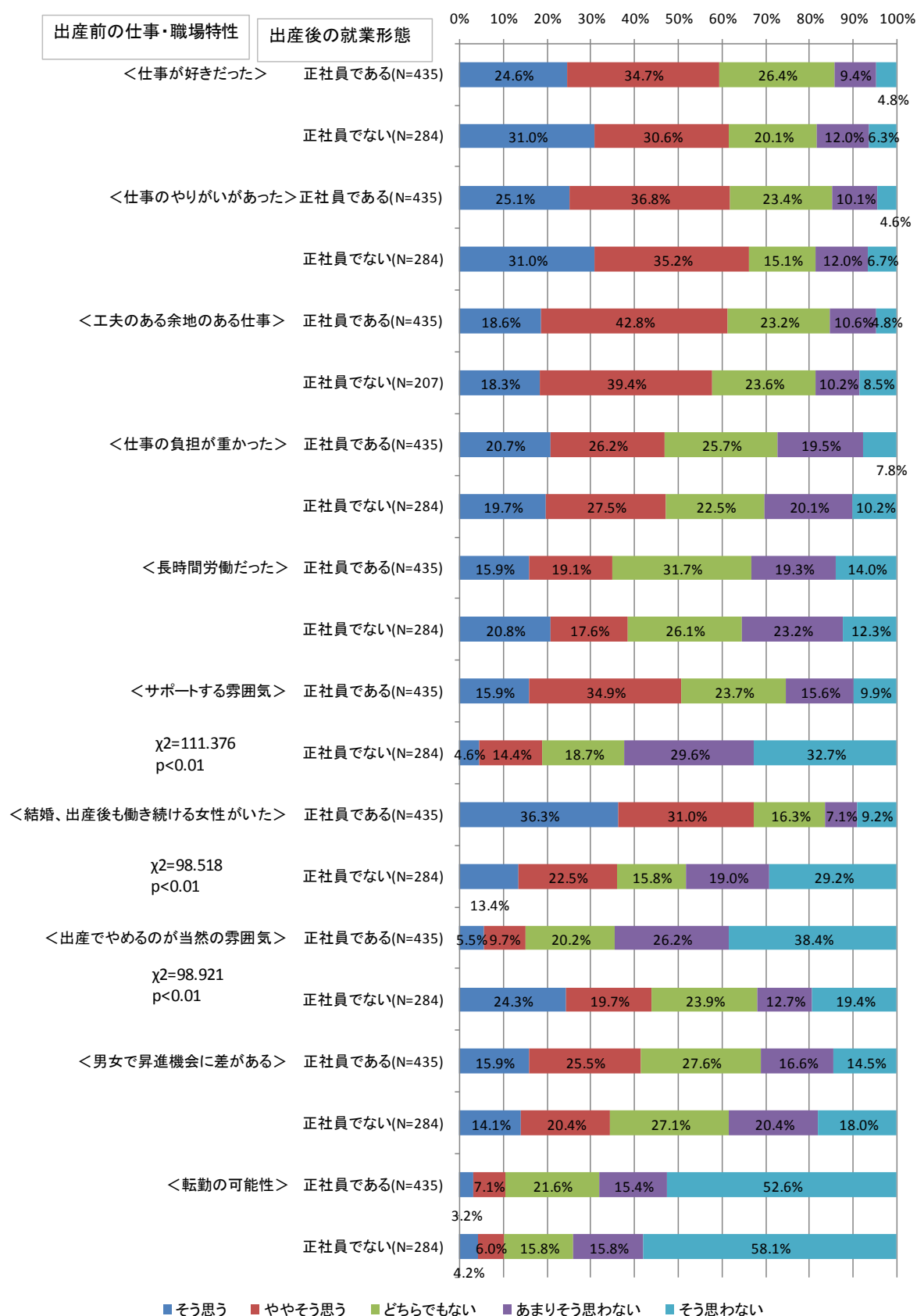
出産後正社員である者の方が、出産後正社員でない者よりも、第1子出産1年前「育児中の人をサポートする雰囲気があった」、「結婚・出産後も働き続ける女性がいた」に「そう思う」「ややそう思う」と回答する者の割合が高い傾向にあり、「出産でやめるのが当然の雰囲気があった」に「そう思わない」「ややそう思わない」と回答する者の割合が高い傾向にあった。「仕事が好きだった」、「仕事のやりがいがあった」、「仕事の負担が重かった」、「自分で工夫する余地のある仕事だった」、「男女で昇進機会に差があると感じた」、「長時間労働だった」、「転居を伴う転勤の可能性があった」については、統計的に有意な違いはなかった。

次に、第1子1歳時に正社員である者とそうでない者別に、第1子出産1年前の配偶者の仕事特性や家事・育児の協力見込みをみた(図表3-6)。

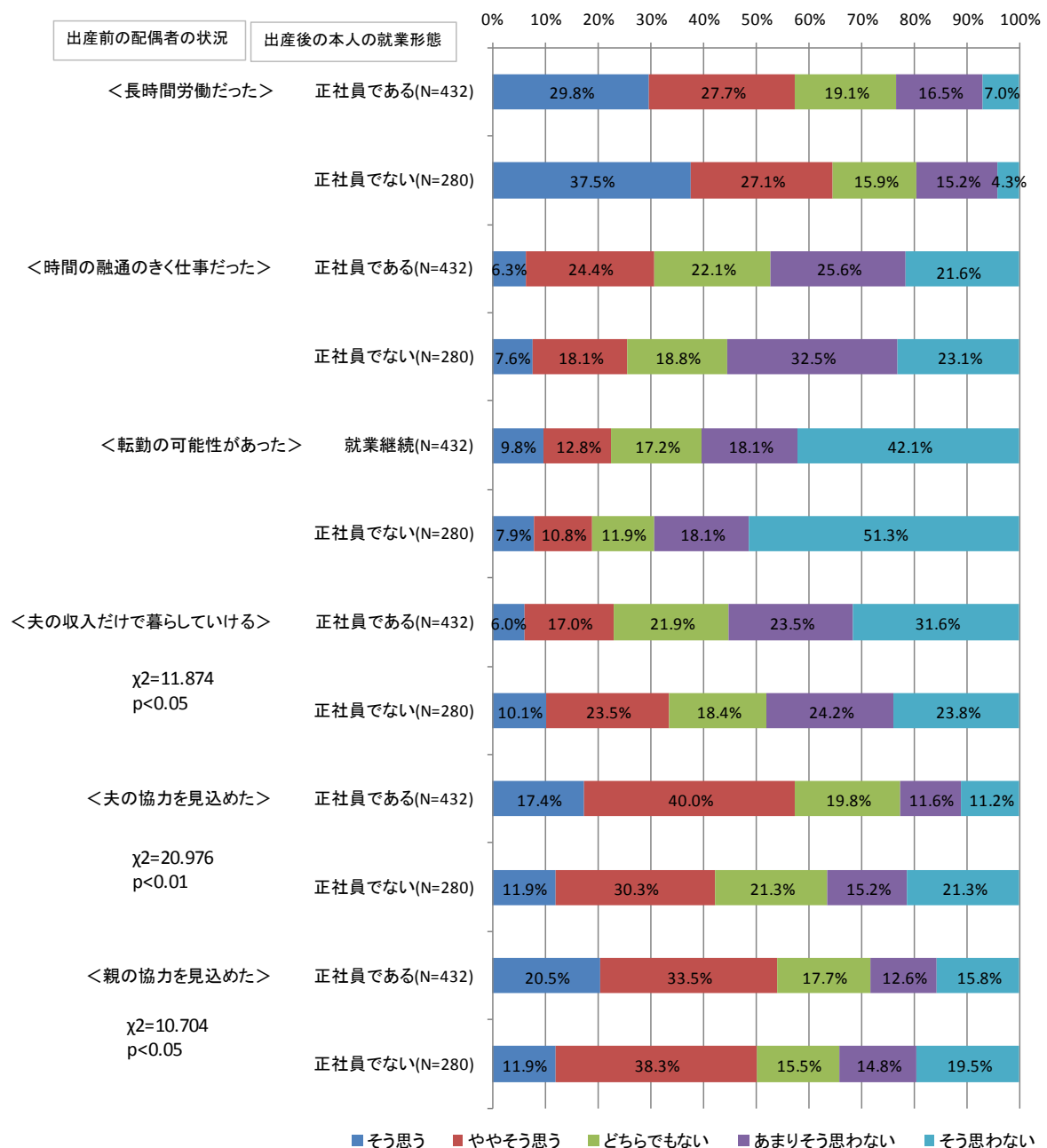
出産後正社員である者の方が、出産後正社員でない者よりも、第1子出産1年前に、「家事や育児に対する夫の協力を見込めた」、「家事や育児に対する親の協力を見込めた」に「そう思う」「ややそう思う」と回答する者の割合が高い傾向にあり、「将来、夫の収入だけで暮らしていけると思った」に「そう思わない」「ややそう思わない」と回答する者の割合が高い傾向にあった。「夫は長時間労働だった」「夫は、時間の融通のきく仕事をしていた」「夫は転居を伴う転勤の可能性があった」については、統計的に有意な違いはなかった。

図表 3-5 出産後も就業継続か否か別 出産前の妻の仕事・職場特性

(分析対象：第1子出産1年前 正社員で子どもがいる者)



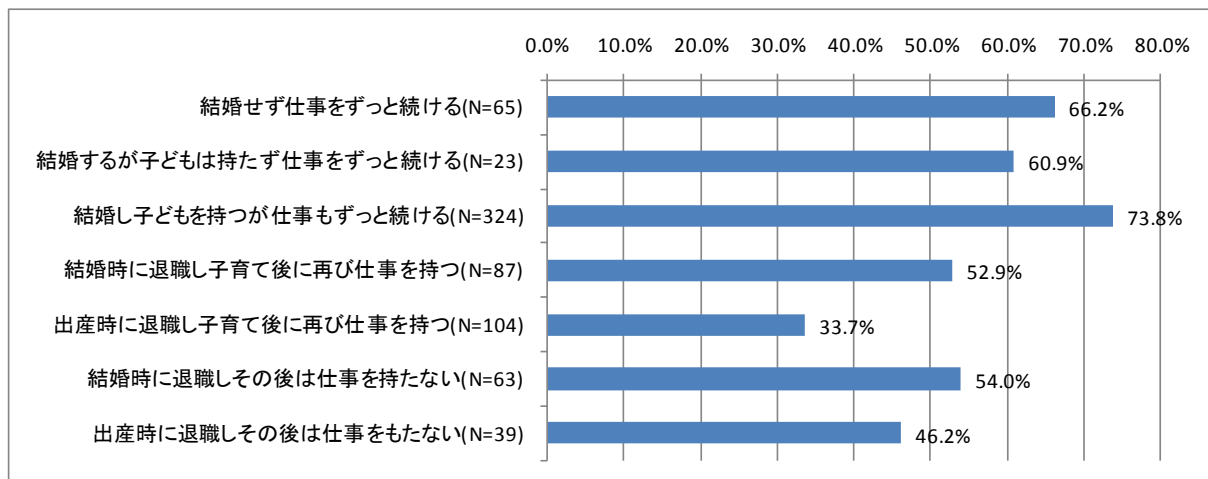
図表 3-6 出産後も就業継続か否か別 出産前の夫の仕事特性や協力見込み
(分析対象：第1子出産1年前 正社員で子どもがいる者)



5. 本人と配偶者の意識・価値規範と出産後の正社員就業

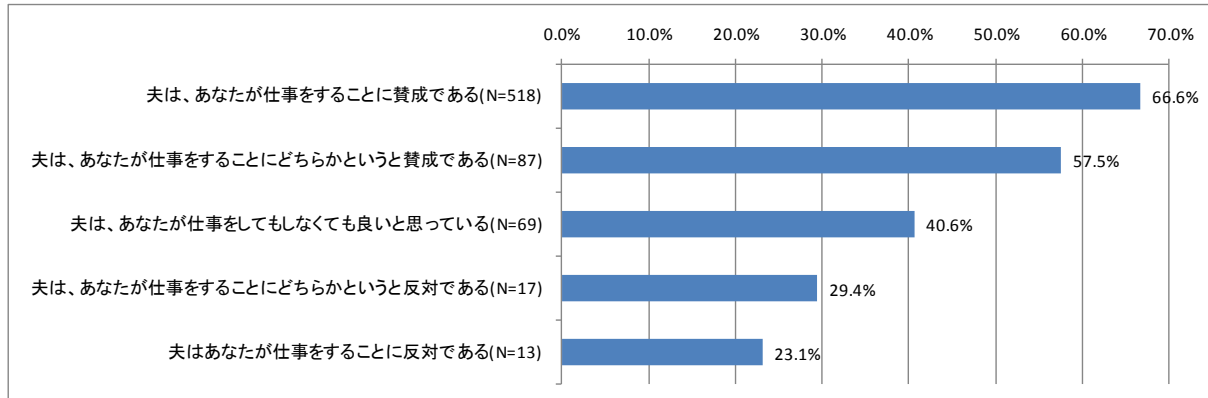
第1子出産1年前に正社員であった者に限って、学卒時に希望する就業パターン別に第1子1歳時にも正社員として就業している割合をみた(図表3-7)ところ、「結婚し子どもを持つが仕事もずっと続ける」と考えていた女性は、他の就業パターンを希望していた女性よりも、就業継続している割合が高く、「出産時に退職し子育て後に再び仕事を持つ」と考えていた女性は、他の就業パターンを希望していた女性よりも、就業継続している割合が低い。しかし、一方、「結婚し子どもを持つが仕事もずっと続ける」と考えていた者でも、第1子1歳時には正社員として就業していない者が3割近くいる。

図表 3-7 学卒時に希望する就業パターン別 出産後正社員就業した割合
(分析対象：第1子出産1年前 正社員で子どもがいる者)



配偶者が、妻が仕事をすることに賛成しているか反対しているかによって、出産後正社員として就業継続した割合に違いがあるかをみた（図表 3-8）ところ、配偶者が、妻が仕事をするに反対している場合よりも賛成している場合のほうが、就業継続している割合が高いことが明らかになった。

図表 3-8 第1子出産1年前の夫考え別 出産後正社員就業した割合



6. まとめ

結婚を決めた頃正社員であった者の状況とその後（第1子出産1年前）の正社員就業継続、及び第1子出産1年前正社員であった者の状況とその後（第1子1歳）の正社員就業継続についてみた。その結果、妻の仕事が好きな仕事、自分で工夫する余地のある仕事、負担の重くない仕事であり、妻の職場が育児中の人をサポートする雰囲気があり、結婚・出産後も働き続ける女性がいて、出産でやめるのが当然の雰囲気がないほど、結婚をはさんだ就業が多かった。また、夫の仕事が時間の融通のきく仕事で、長時間労働ではなく、転居を伴う転勤の可能性がないほど、結婚をはさんだ就業が多かった。さらに、家事や育児に対する夫の協力を見込めたほど、夫が妻が仕事をするについて賛成しているほど結婚をはさんだ就業が多いことが明らかになった。出

産をはさんだ就業継続については、妻の職場が育児中の人をサポートする雰囲気があり、結婚・出産後も働き続ける女性がいて、出産でやめるのが当然の雰囲気がないほど、出産をはさんだ就業が多かった。また、家事や育児に対する夫の協力を見込めたほど、夫が妻が仕事をするということについて賛成しているほど出産をはさんだ就業が多いということが明らかになった。（山谷 真名）